

10. モモのウメシロカイガラムシ防除に有効な薬剤

[要約]

カイガラムシ類に対する主要登録薬剤のうち、ウメシロカイガラムシにはアプロードフロアブル、オリオン水和剤40、モスピラン顆粒水溶剤、スプラサイド水和剤が有効である。また、防除適期はふ化直後の歩行幼虫期である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

近年、岡山県のモモ生産圃場では、カイガラムシが多発傾向である。ウメシロカイガラムシは、本県で発生しているカイガラムシ類の主要種で、現地圃場では薬剤感受性の低下が懸念されている。そこで、ウメシロカイガラムシに対して有効な薬剤の選抜を行った。

[成果の内容・特徴]

1. ウメシロカイガラムシ歩行幼虫に対して、モスピラン顆粒水溶剤は殺虫効果が高い(表1)。
2. アプロードフロアブル、オリオン水和剤40及びスプラサイド水和剤は、効果が認められる(表1)。
3. コルト顆粒水和剤、ダーズバンDFはウメシロカイガラムシ歩行幼虫に対して、薬剤の効果が低い(表1)。
4. これらの剤は、ふ化直後の歩行幼虫に効果が高い。このため、トラップを設置し、歩行幼虫発生時期を把握することで適期に防除する(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、農業研究所病虫研究室内の殺虫剤無散布の鉢植え栽培モモに発生しているウメシロカイガラムシを用いており、薬剤防除履歴の異なる圃場では、薬剤の効果が異なる場合も考えられる。
2. 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避ける。
3. 簡易トラップで歩行幼虫の発生確認2～3日後が歩行幼虫の発生ピークと考えられるので、防除適期はそこからさらに2～3日後となる。

[具体的データ]

表 1 ウメシロカイガラムシに対する主要薬剤の効果

薬剤名	希釈倍率	薬剤散布前 寄生雌成虫数	薬剤散布64日後			判定 ^y	系統
			調査虫数	死虫数	補正死虫率(%) ^z		
アブロードフロアブル	1,000倍	37.0	33.7	28.0	79.2	○	IGR
オリオン水和剤40	1,000倍	40.0	38.3	30.3	75.6	○	カーバメート
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	35.7	30.0	29.7	98.7	◎	ネオニコチノイド
コルト顆粒水和剤	2,000倍	36.7	32.0	17.3	46.5	×	その他
ダーズバンDF	3,000倍	34.7	30.0	11.7	28.6	×	有機リン
スプラサイド水和剤	1,500倍	31.3	30.0	27.3	89.6	○	
水	—	34.0	30.0	4.3	—	—	

^z 補正死虫率 = { (水処理区の生存虫率 - 処理区の生存虫率) / 水処理区の生存虫率 } × 100

^y 判定：◎；薬剤の効果が非常に高い（補正死虫率が90%以上）、○；薬剤の効果が非常に高い（補正死虫率が70～90%）、△；薬剤の効果が認められるが程度は低い（補正死虫率が50～70%）、×；薬剤の効果が低い（補正死虫率が50%以下）とした



図 1 モモ枝に設置したカイガラムシ類の簡易トラップ

注) カイガラムシ類の幼虫は極めて小さく（体長約 0.2mm）、目視での確認が困難。簡易トラップを設置すると、歩行幼虫期に幼虫が枝とトラップの境目に集まり、オレンジ色の幼虫集合体として目視で確認が容易になる

写真左：両面テープを利用したトラップ

写真右：毛糸を利用したトラップ

[その他]

研究課題名：モモのナシマルカイガラムシ防除体系の確立

予算区分：病害虫等防除総合対策事業

研究期間：2015年度

研究担当者：薬師寺賢

関連情報：[平成27年度試験研究主要成果、43-44](#)